

豪雨による洪水や地滑りで200人超が亡くなったスリランカへの支援活動が呼びかけられている今、戦後処理で日本が分割されそうになるのを救った、セイロン（スリランカ）による講和会議での演説に改めて注目が集まっています。その演説は「憎しみは憎しみによっては止まず、ただ愛によってのみ止む」という仏教の教えを引用した素晴らしい内容です。スリランカは日本から2度も空襲を受けたのに対日賠償請求権も放棄したのです。

そのスリランカに1か月前に旅をした吉田さんから写真を見ながら話を伺いました。会場には、その旅を企画したスリランカ人のエランガさん、一緒に旅をした仲間、そしてエランガさんの英会話教室の生徒さんもかけつけてくださいました。

今回の訪問は「日本スリランカ友好協会」のラール&エランガ・ティラカラタネ夫妻が長年行ってきた物資・教育支援活動の一環で、救急車・教育支援金・テニスボール（クリケットに使用）などの受け渡しセレモニーへの参加が主目的でした。

スリランカの正式な国名はスリランカ民主社会主義共和国です。面積は北海道の約0.8倍で、人口は約2,096万人。首都はコロンボからスリ・ジャヤワルダナプラ・コッテに移転しましたが、中心都市は今でもコロンボです。民族はシンハラ人（72、9%）タミル人（18%）スリランカ・ムーア人（8%）です。言語はシンハラ語とタミル語が公用語で、英語が連結語です。宗教は仏教が70%、ヒンドゥ教10%、カトリック教11、3%で、仏教が生活の隅々まで行きわたっています。

そんなスリランカには仏教史跡がたくさん見られます。古都アヌラダプラにあるイスラムニヤ精舎（紀元前3世紀の僧院）、スリー・マハー菩提樹、ルワンウエリ・サーヤ大塔。また、ダンブツラ黄金石窟寺院、仏歯寺（仏陀の犬歯・王権の象徴を保管）、スリランカにたくさんある涅槃仏など。伊自良村が寄進したという寺もあります。これらの写真と説明で、スリランカはいかに仏教精神が深く、僧侶への信頼が厚く、仏教・寺院が果たしている社会的役割が大きいかを知りました。

その他、観光で訪れた世界遺産、シーギリアロック、植民地時代のゴール要塞都市などについても、お土産の紅茶とクッキーをいただきながら話を伺いました。

その後、エランガさんから簡単な支援活動について紹介があり、吉田さんと一緒に旅行をした方たちから旅行の感想などを聞きました。また、その他にも今までにスリランカに旅行をしたことのある人、家族にスリランカと縁のある人などが興味深い話をされ、こんなにもスリランカと深い絆のある方がたくさんいるのだと驚かされました。また各務原からはインド、スリランカでも仏教の活動をされている僧侶が参加されていて、吉田さんの話をさらに深めてくださいました。

緯度はかなり南であるにもかかわらず高度があり、それほど暑くないこと、滝や崖が多く、魅力的な観光地が多いことなど、本当に魅力にあふれた国だということがわかりました。最後に水害支援カンパの呼びかけがあり、皆さんから支援金が寄せられました。